

軽種馬育成調教場の運営・管理

平成 23 年を迎えて

全国多数の地域で大雪の中新年を迎えたようですが、読者の皆様の地元はいかがでしたでしょうか？BTC 日高事業所のある浦河では、年末に大雪が降ったものの元日に降雪はほとんどありませんでした。しかしながら、年明け早々に強風が吹き荒れ、敷地内のいたるところに雪の吹き溜まりができてしまいました。3 日に開場を控えておりましたので、前日の 2 日に吹き溜まりの撤去作業を行うこととなり、それが今年の仕事初めとなりました。

さて、平成 22 年の調教場利用馬の競走成績について報告します。中央競馬における 2 歳馬の成績は新馬勝ち 42 勝を含め 115 勝（平成 21 年は 111 勝）で、ほぼ例年並みの成績でした。また、古馬を含めた中央競馬全体の成績では、昨年は 735 勝であったのに対し、一昨年は 763 勝をあげておりますので、前年よりはやや落ち込んだ結果となりました。一方、公営競馬における 2 歳馬の成績は 112 勝で、前年の 93 勝と比較すると幾分上向きの成績となり、古馬も含めた成績でもこちらは 2,550 勝（前年 2,400 勝）とまずまずの成績となっております。

次に、調教場の利用延頭数ですが、平成 22 年は 178,773 頭（一日の平均利用頭数は 575 頭、対前年比：98.8%）でした。利用延頭数は開場以来ずっと増加傾向にありましたが、昨年については平成 21 年の 180,886 頭をやや下回る結果となりました。しかしながら、それ以前の記録を大幅に更新した平成 20 年の 169,701 頭と比較してみると 105.3%となっており、調教場の利用頭数は依然として増加傾向にあるようです。とりわけ、昨年最も利用頭数が多かった日は 4 月 30 日で、その日の 778 頭は一日あたりの利用頭数としては調教場開場以来の最高記録となっております。

平成 22 年の利用状況を詳しく見てみると、利用頭数が大きく減少した月は 1、2 月および 8 月で、昨年の大雪や夏の猛暑の影響があったのかもしれませんが、また、年齢別で見ると、全年齢層で利用頭数は減少しているものの、4 歳以上の古馬の利用頭数が大きく減少するという特徴がありました。今年の調教場利用馬の傾向にも注目したいと思います。

平成 22 年に当財団で実施した主な作業

屋内トラック馬場の劣化したクッション砂を入れ替えました。

屋内坂路馬場の帰り馬道にウッドチップを補充しました。

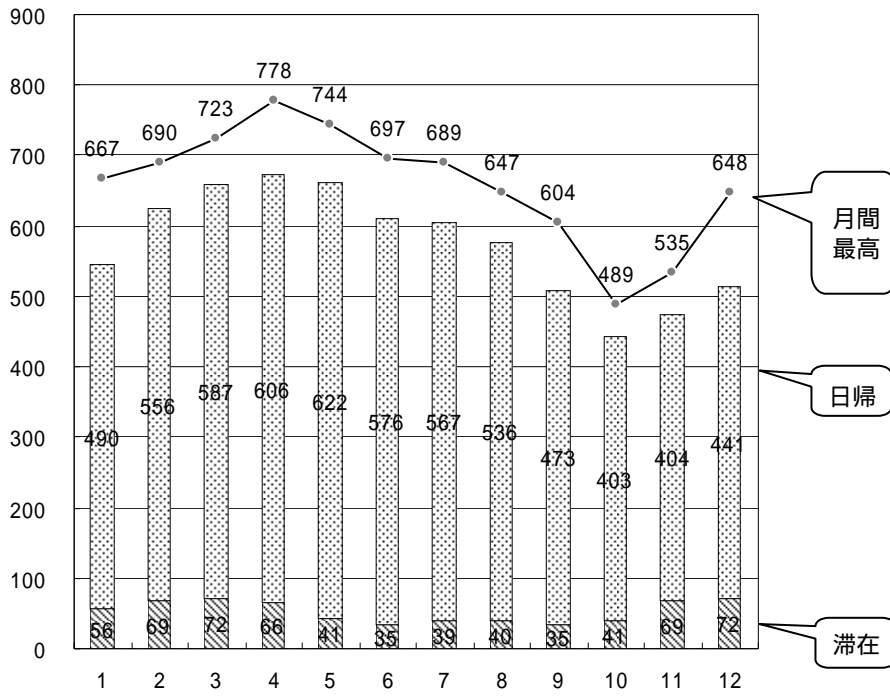
準備馬場のウッドチップの劣化に伴い、内側 4 m のウッドチップを入れ替えました。

1,600m の直線砂馬場の走路の柵を片側 200m 延長し、400m としました。

坂路芝馬場の損傷箇所の芝を張替え、馬場を補修しました。

2010 年度利用状況

月別1日当たり平均調教頭数及び最高頭数



上記の作業以外にも各砂馬場の砂厚調整や風倒木の撤去、破損箇所の修繕、除雪作業などを必要に応じて行い、施設を安全にご利用いただけるよう日々のメンテナンスに努めております。今後とも皆様のご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。